3-9. 上陳・下陳・北向地区

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

上陳・下陳・北向地区は、益城町の北部中央に位置します。北部に流れる木山川の北側は田原地区、南西側は平田地区に接しています。

熊本市と高森町を結ぶ県道 28 号から南側に集落が広がっており、この県道が住民の移動には欠かせない交通路となっています。

地区内を流れる金山川の西側には耕作地（田）が広がり、下陳米をはじめ、豊かな水の恵みを活かした農業が盛んです。中尾、柿迫といった山間部の集落を含む北向地区においては、果物の栽培も盛んです。ホタルが飛び交う水辺もあり、水と緑に囲まれた地区です。

また、貴重な文化財が各地区に受け継がれており、集落内には、用水路（上陳地区）や昔ながらの石垣や石積みの景観も残っています。

（注 1）青円は行政区で、各集落を指す。

図　上陳・下陳・北向地区

■人口等

平成 28 年度（平成 29 年３月末日）の住民基本台帳によると、上陳・下陳・北向地区の人口は 538 人、世帯数は 209 世帯となっています。

平成 26 年度から 28 年度までの３年間の人口・世帯数の推移をみると、震災前はやや増加していたものの、震災後の１年間では前年比で世帯数は５％、人口は６％減少しています。

表　上陳・下陳・北向地区の人口・世帯数の推移（平成 26～28 年度）

	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
上陳	62	167	64	168	60	156
下陳	83	210	84	209	80	198
北向	71	188	73	194	69	184
合計	216	565	221	571	209	538

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

表　上陳・下陳・北向地区の人口・世帯数の前年比（平成 26～28 年度）

前年比	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
上陳	―	―	1.03	1.01	0.94	0.93
下陳	―	―	1.01	1.00	0.95	0.95
北向	―	―	1.03	1.03	0.95	0.95
合計	―	―	1.02	1.01	095	0.94

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

表　上陳・下陳・北向地区の人口・世帯数の平成 26 年度比（平成 26～28 年度）

平成 26 年度を 1 とする	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年	
	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口
上陳	1.00	1.00	1.03	1.01	0.97	0.93
下陳	1.00	1.00	1.01	1.00	0.96	0.94
北向	1.00	1.00	1.03	1.03	0.97	0.98
合計	1.00	1.00	1.02	1.01	0.97	0.95

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

※上記のデータは住民基本台帳に基づいており、仮設住宅やみなし仮設住宅の居住者で住民票を移していない人もこのデータの中に含まれているため、実際の地区居住者数と異なる場合があります。

（２）被害状況

熊本地震後の住家の被害認定状況をみると、上陳地区は、住家の 32%が「全壊」と被害が大きく、全体の 74%が半壊以上となっています。

下陳地区は、3 地区の中では最も被害が小さく、全体の 71%が一部損壊と判定されています。

北向地区は、全壊、大規模半壊はそれぞれ 10%と他の地区と比べて被害は大きくないものの、約半数の家屋が半壊以上となっています。

表　被災状況（住家）

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
上陳	18	7	17	15	0	57
下陳	6	4	12	53	0	75
北向	7	7	21	33	0	68
計	31	18	50	101	0	200

表　被災状況の割合（住家）

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
上陳	32%	12%	30%	26%	0%	100%
下陳	8%	5%	16%	71%	0%	100%
北向	10%	10%	31%	49%	0%	100%
計	16%	9%	25%	51%	0%	100%

（３）地区の課題

・震災前は人口・世帯数は微増、震災で人口・世帯数共に減少

・熊本高森線・マミコウロード以外の道路はほとんどが幅員 6m未満

２．地区の基本方針

上陳・下陳・北向地区は地域内の団結力があり、寺社やそれらにまつわる地域行事が昔から受け継がれ、水と緑に恵まれ、石積みの風景が残る地区です。

しかし、熊本地震により被災した道路等の修復が現在も続けられていることや、河川やがけ地の早期安全対策が必要であること、また指定避難所が震災時に機能しなかったことから、「安心して暮らし続けることのできる故郷」の構築が急務となっています。

今後、ハード・ソフトの両面から災害に備えたまちづくりを進めるとともに、地域の人や自然、歴史や景観等の魅力的な資源を再認識しながら、地区や世代の枠を越えた、さらなる相互扶助のまちづくりを目指します。

【まちづくりの目標・まちの将来像】

“多世代つながる　安心のふるさと”

３．避難路・避難地の計画

＜避難地＞

避難地については、土地の高低差や河川からの距離等について十分に考慮しながら、まちづくり協議会と協議を行い、適地を選定した上で、災害時の一時避難場所を整備します。

表　避難地の整備の概要

公園名等	整備内容		整備の内訳			概算事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	（m）	（m）	（㎡）	（千円）
一時避難場所	地区公共施設（避難地）	新設			1000.0	30,000

上陳・下陳・北向地区

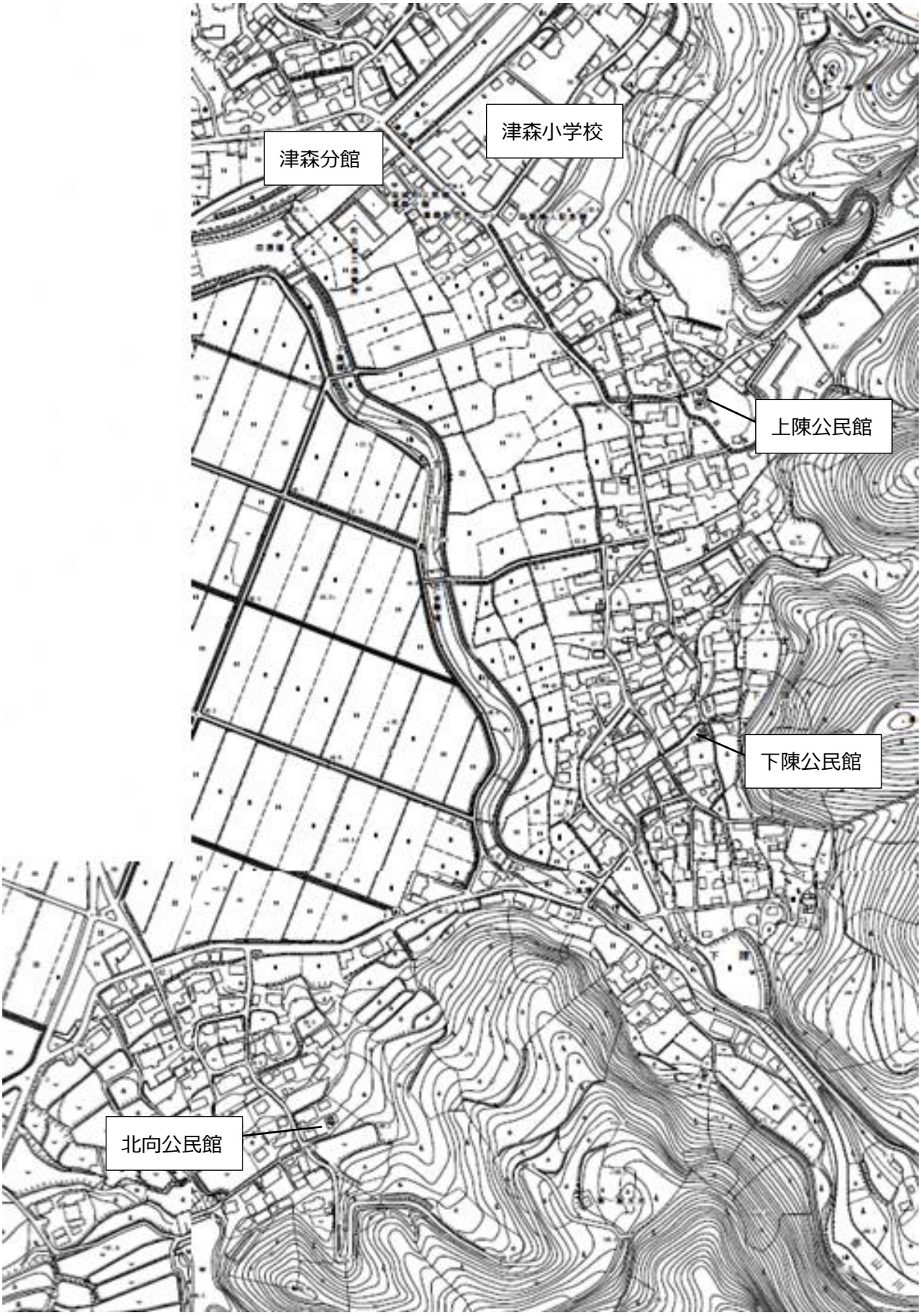

図　避難地計画図